

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	技術監理室
-----------	--------------

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	社会経済活動における資源の循環利用

担当局 / 総務担当課名	技術監理室	技術企画課
連絡先	582 - 2043	

21年度計画

-3-(3)-

施策名	建設リサイクルの推進
------------	-------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	建設工事副産物の発生抑制、再資源化など、公共工事における建設リサイクルに取組むとともに、再資源化されたりサイクル資材の利用促進を図る。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	社会経済活動における資源の循環利用

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値			平成21年度		目標値	
	年度	20		計画	100 %	年度	25
コンクリート塊の再資源利用促進率	年度	20	計画	100 %	年度	25	
建設リサイクル数値目標	現状値	100%	実績	100 %	目標値	100%	
			達成度	100.0 %			
アスファルト・コンクリート塊の再資源利用促進率	年度	20	計画	100 %	年度	25	
建設リサイクル数値目標	現状値	100%	実績	100 %	目標値	100%	
			達成度	100.0 %			
建設木材の再資源利用促進率	年度	20	計画	100 %	年度	25	
建設リサイクル数値目標	現状値	98%	実績	87 %	目標値	100%	
			達成度	87.0 %			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	千円	3,900 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。 今後の局施策の方向性	A	資源消費の少ない、エネルギー効率の高い社会経済システム及び適正な循環的利用と処分のシステムづくりに効果大である。廃棄物等の循環資源が適正・有効に利用されており、処分の促進率は、「循環型社会」の構築に必要である。
	再資源利用促進率の目標はほぼ達成されており、「循環型社会」構築のため現状のまま進めるのが適当である。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

建設リサイクル法に基づく再資源化義務となっているものが目標となっており、100%が当然といえるものであります。公共工事等におけるリサイクル資材の活用の状況等を指標とすることも、今後検討するべきものだと考えます。

施策名 建設リサイクルの推進

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
建設リサイクルの推進			千円	3,900 千円				ア	
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
施策全体の事業費のうち一般財源	千円	3,900	千円
	千円		

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	技術監理室	技術企画課
連絡先	582-2043	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	社会経済活動における資源の循環利用
	主要施策	建設リサイクルの推進

関連計画	
事業期間	
経費区分	

-3-(3)-

事業名	建設リサイクルの推進
-----	------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	資源の有効利用の確保と産業廃棄物の適正処理を図り、生活環境の保全と健全な経済発展に寄与することを目的に「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(通称:建設リサイクル法)」が策定され、それにより一定規模以上の建設工事についてコンクリート塊、アスファルト塊、廃木材の分別及び再資源化が義務付けられた。これを踏まえ、建設産業が先導的にリサイクルを推進する必要があることから、「建設副産物実態調査」を継続実施し、特定建設資材廃棄物の再資源化利用促進率を評価することによって循環型社会の構築に役立てるもの。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	建設リサイクルの推進	成果
				コンクリート塊の再資源利用促進率
				アスファルト・コンクリート塊の再資源利用促進率

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状								
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	目標
		建設副産物実態調査(「再生資源利用計画書・実施書」「再生資源利用促進計画書・実施書」の提出)	計画	100	%	年度	25			
		契約金額が100万円以上のすべての建設工事を対象に「再生資源利用計画書・実施書」「再生資源利用促進計画書・実施書」の促進率の数値を基にコンクリート塊、アスファルト塊、廃木材の()の平均を指標とする。	実績	96	%	内容	100% 100% 100%			
			達成度	96.0	%	年度				
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]	事業費	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		3,900	千円		
			うち一般財源	千円						
	単年度計画									

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	契約金額が100万円以上のすべての建設工事を対象に建設副産物実態調査を実施。 公共工事においては、建設副産物の再資源化の推進を義務付けると共にその実態を提出することとしている。併せてこの制度の趣旨をHP等で周知することで、ほぼ計画指数に近い96%に至った。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	資源消費の少ない、エネルギー効率の高い社会経済システム及び適正な循環の利用と処分のシステムづくりに効果大である。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3 資源循環の取組の広がりが関係主体に浸透している。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	4 廃棄物等の循環資源が適正・有効に利用されており、処分の促進率は、「循環型社会」の構築に必要なものである。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	4 地方自治体をはじめ関係主体の連携・協働の促進を図ると共に、循環型社会の形成に関する総合的な取組が必要になるため実施主体として市が適当である。

今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア 基本的には現状のまま進めるのをベースとして、成果実績数値を継続維持するために再資源化促進を促す情報を適宜提供する。
--------	---	---	---